

宮崎の淡水魚

～心のふるさと 森と川～

(網の瀬川)



川の上流 (溪流)

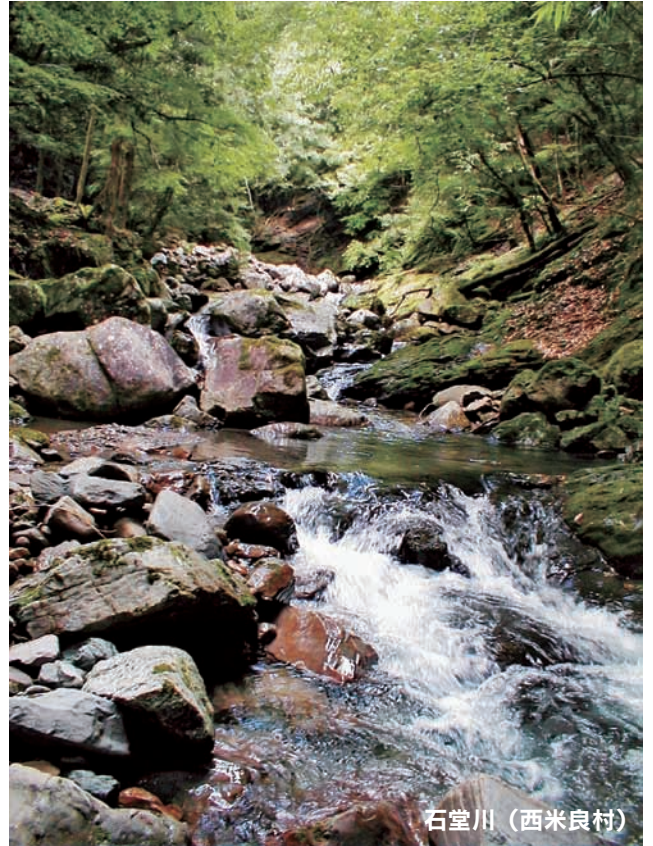
山に降った雨が地中に浸透し、再び地表に湧き出てくるところが川の始まりです。いくつもの湧水（ゆうすい）が集まり、やがて溪流へとなっていきます。水は清く澄み、流れは速く、水温は夏場でも 20℃ 以上になることはありません。



ヤマメ（エノハ、マダラ） ●全長：約 30cm

●宮崎の溪流域を代表する魚。

海へ下るものをサクラマスというが、宮崎にはいない。ダムなどを海の代わりとし、大型化するものがある。



石堂川（西米良村）



タカハヤ（アブラメ）

●全長：約 13cm

●つかむとウナギのようにヌルヌルしている。アブラハヤという似た魚がいるが、宮崎には分布しない。



ヤマトヌマエビ

●体長：約 4cm

●川の源流部にも生息しているが、繁殖のためには塩分が必要で、ふ化した幼生は海まで下る。



ルリヨシノボリ

●全長：約 12cm

●川の上流から中流にかけてすむ。ほおの青い斑点が特徴。



サワガニ ●甲羅の幅：約 2.5cm

●日本にすむカニのうち、一生を淡水で過ごすカニはサワガニのみである。大きな卵を産み、子ガニになるまで親が世話をする。

体の色はバリエーションが豊かで、紫や水色、茶色などがある。



オオヨシノボリ

●全長：約 12cm

川の上流から中流にかけてすむ。ヨシノボリの仲間では大型になる種類である。



高崎川（都城市）

小さな流れがたくさん集まると、川は水量を増し川幅も広がります。

川の中流域には、多種多様な生き物たちが息づいています。この中には、一生の内一度は海に下らなければ繁殖できない通し回遊をするものが多いです。


アユ ●全長：約 25cm

●宮崎の川を代表する魚であり、養殖も盛んに行われている。

稚魚は海で育ち、春から初夏にかけて川をさかのぼる。寿命は普通1年。


オイカワ（ハエ）

●全長：約 15cm

●カワムツに似ているが、カワムツより流れのあるところを好む。雑食性。


カワムツ（ムツゴロ）

●全長：約 18cm

●オイカワよりも流れの緩やかなところに多い。雄はオレンジ色が濃い。一生を川で過ごす。


ウグイ（イタ） ●全長：約 30cm

●雑食性で付着藻類や昆虫などを食べる。一部は海に下る。

産卵期には体側に朱色のラインが入る。（後方）


ドンコ（ゴモ）

●全長：約 25cm

●ハゼの仲間で、中流域の流れの緩やかなところに多い。一生を川で過ごす。


カマツカ ●全長：約 20cm

●砂れき底を好む。下向きについた口で、砂ごと餌を吸い込み、エラでこしとって食べる。


ボウズハゼ ●全長：約 12cm

●口と腹びれで岩に吸着し、垂直なガケでも上ることが出来る。

餌は付着藻類でかき取って食べる。通し回遊を行う。

川の下流〜河口域



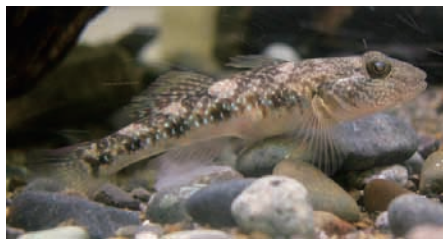
大淀川（宮崎市）

小さな流れから始まった川は大きな流れとなり、平野部を抜け、やがては海へと注ぎ込みます。川と海が交わる河口域は汽水域とも呼ばれ、海と川を行ったり来たりする生き物たちであふれています。



ウナギ ●全長：約 1m

●通し回遊を行い、深い海で産卵するといわれている。養殖が盛んに行われている。宮崎県はシラスウナギ（ウナギの稚魚）の主産地。



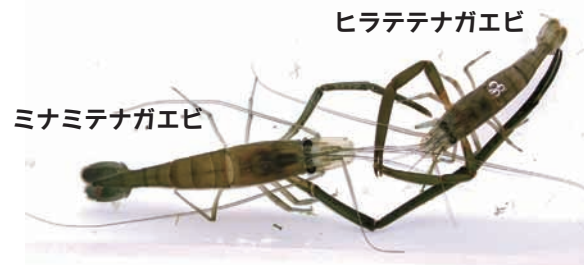
ゴクラクハゼ ●全長：約 6cm

●川の下流から河口域はハゼの仲間が多いが、中でもゴクラクハゼはごく普通にみられる。雑食性。



カワアナゴ ●全長：約 25cm

●川の下流から河口域にすむ。背中が明るい茶色をしている。



テナガエビ

●体長：約 10cm

●宮崎県には、3種類のテナガエビがすんでいる。名前の通り、オスの手（はさみ脚）が長い。いずれも通し回遊を行う。



カマキリ（アユカケ）

●全長：約 25cm

通し回遊を行い、沿岸域で産卵する。遡上能力が低く、河川の横断構造物などがあるとそれ以上は上れないため、各地で減少している。

モクズガニ

（ツガニ、ヤマタロガニ）

●大型のものでは、甲羅の幅 10cm にもなる。通し回遊を行う。はさみに毛が生えていることから、この名がついた。



アカメ（マルカ） ●全長：約 1.2m

●宮崎県から和歌山県にかけて分布し、準絶滅危惧種に指定されている。目がルビー色に輝くことからこの名がついた。



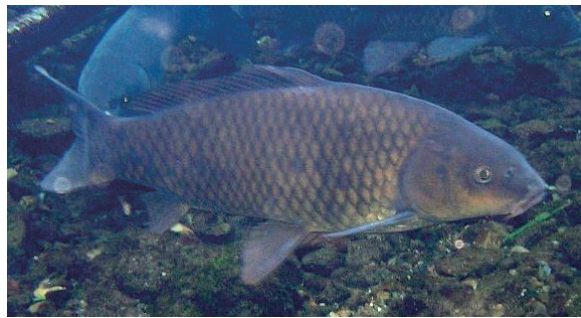
出の山公園（小林市）

宮崎県内には大小さまざまな池や沼、ダム湖がたくさんあります。かんがい用のため池などは人間の生活に密着しているため、外来魚の密放流も多く、従来の生態系が大きく変わりつつあります。また、人間の生活に深い関わりのある水辺としては、田んぼがあります。繁殖のため、田んぼや用水路を利用する魚もたくさんいます。

ドジョウ

●全長：約 15cm

●田んぼの周辺や浅い泥底の池に多い。最近では、あまり見かけなくなった。



メダカ ●全長：約 4cm

●田んぼや川の流れの緩やかなところにすむ。近年、環境の悪化により数は減っており、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



コイ ●全長：約 60cm

●日本を代表する淡水魚。池のほか、川の流れの緩やかなところにすむ。

大きいものでは1mを超える。古くから食用として利用されてきたため、養殖の歴史も古い。

錦鯉は本種の色彩変異個体の改良品種。



スジエビ ●体長：約 5cm

●池や川の流れの緩やかなところにすむ。一生淡水で過ごす。



ギンブナ ●全長：約 30cm

●日本人に最もなじみ深い淡水魚。宮崎県には、やや体高の高いゲンゴロウブナ（ヘラブナ）も生息している。



ナマズ ●全長：約 60cm

●池や沼、川では水の流れのないところに多い。小魚やカエルを食べる。

産卵期は5月頃で、田んぼなどに群れで入ってきける。

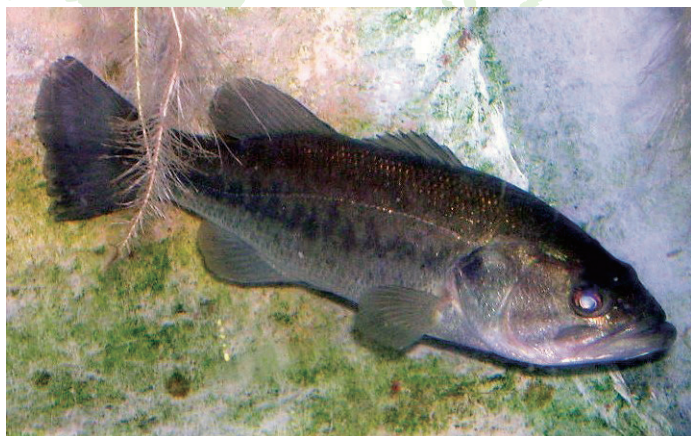


モツゴ ●全長：約 8cm

●田んぼや川の流れの緩やかなところにすむ。小さい口が特徴。

日本には、世界各地から養殖用や観賞用を目的として数多くの種類の生き物が持ち込まれています。その中には日本の天然水域で繁殖し、従来の生態系を脅かす外来種もいます。その独特の繁殖方法により、日本各地に分布を広げています。

これらの内、ブラックバス、ブルーギル、カダヤシ、チャネルキャットフィッシュ等数種は**特定外来生物**に指定されており飼育・輸入・放流が禁止されています。また、カムルチー、アメリカサリガニについては内水面漁業調整規則により、移植・放流が禁止されています。どちらも違反した場合には処罰されます。



オオクチバス (ブラックバス)

●全長：約 50cm ●北アメリカ原産

● 1925 年に神奈川県のアサノ湖へ移入されたものが、密放流により全国各地に生息域を広げている。

肉食性が強く、在来種を圧迫し生態系に与える影響はかなり大きい。巣を作り、雄が卵や稚魚を守る。



カムルチー (ライギョ)

●全長：約 80cm

●アジア大陸東部原産

● 上鰓器官という呼吸器官で空気呼吸をする。網などにかかり、空気呼吸が出来ないとおぼれてしまう。小魚やサリガニ、カエルなどを丸飲みする。



ブルーギル

●全長：約 25cm ●北アメリカ原産

● オオクチバス同様巣を作る。雑食性で、水生植物や小魚、エビ、魚卵などを食べる。

エラブタの青い模様が特徴で、名前の由来にもなっている。



ナイルティラピア

●全長：約 50cm ●西アフリカ原産

● イズミダイ、チカダイとして養殖されていたものが逃げ出し繁殖している。

雌は卵を産むと口の中で管理し、ふ化した稚魚の世話をする。(マウスブリーディング)

カダヤシ (タッパミノー)

●全長：雄 3cm 雌 5cm

●北アメリカ原産

● 日本はもとより世界各地に分布域を広げて、在来のメダカ類を圧迫している。

卵ではなく稚魚を産む卵胎生(らんたいせい)である。



アメリカサリガニ

●体長：約 10cm

●北アメリカ原産

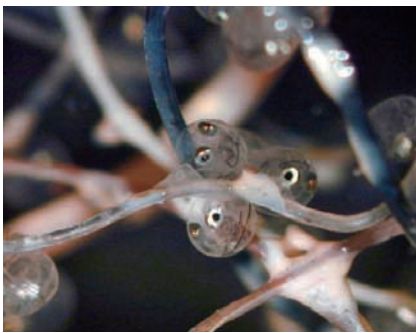
● ウシガエルの餌として持ち込まれたものが、日本各地で繁殖している。

宮崎県水産試験場小林分場

小林市出の山にある宮崎県水産試験場小林分場では、内水面資源の維持増大を図るため、新しい養殖対象魚種の開発、遺伝的多様性に配慮した種苗生産技術や放流管理技術、地域特性を生かした増殖場の造成技術等の試験・研究を行っています。

また、同じ敷地内には淡水魚展示館があり、宮崎の川や池にすむ魚のほか、外国の淡水魚も見ることが出来ます。

養殖や放流のための稚魚を作る技術の開発



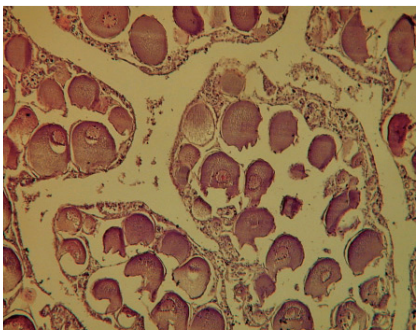
アユの発眼卵

淡水魚の利用価値を高める技術の研究



チョウサメ有用成分の比較

淡水にすむ魚介類の養殖技術の開発と改良



チョウサメの生殖腺（顕微鏡写真）



チョウサメの採卵

川や湖沼の多様な生物と生態系を守るための研究



河川における生物分布調査



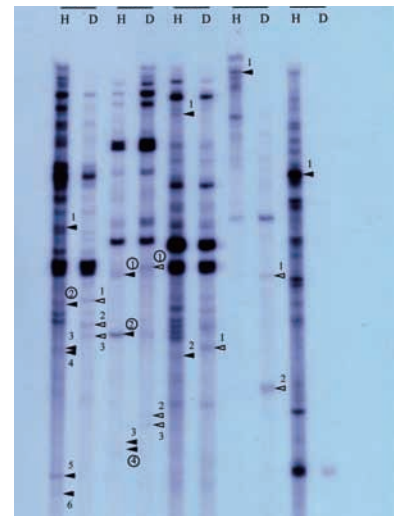
簡易魚道の実験

〒 886-0005
小林市大字南西方字出之山 1091
TEL:0984-23-3358
FAX:0984-22-8744
URL:<http://www.suisi.miyazaki.miyazaki.jp/>

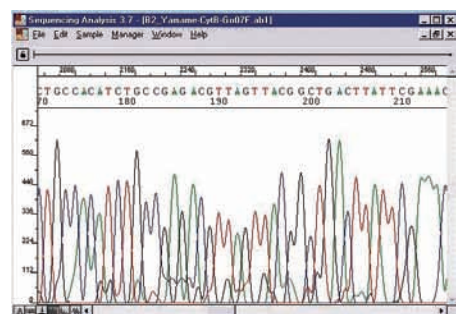


空から見た小林分場

遺伝子を調べて利用価値の高い養殖魚などの品種を改良する技術の開発



高温に強いニジマスと普通のニジマスとの遺伝子の比較



ヤマメの遺伝子の多様性を調べる



(福島川)



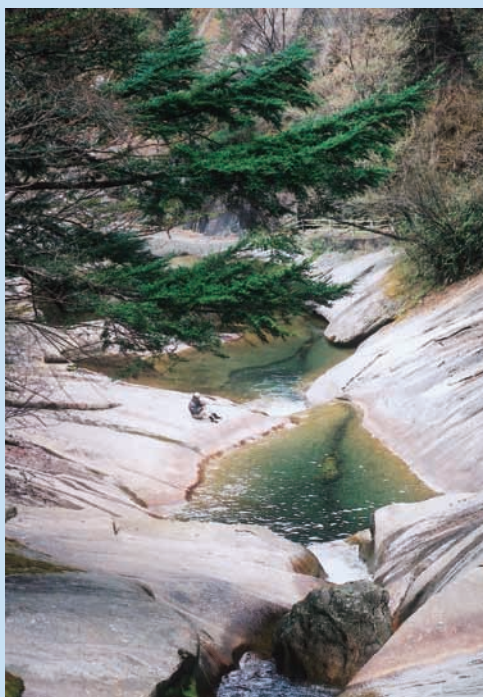
「カワウの逆襲」(大淀川)



「今は昔の物語」(本庄川；あば堰)



(大瀬川)



(鹿川)

宮崎県内水面漁業協同組合連合会

〒880-0803 宮崎市旭2丁目1番21号
TEL 0985-22-5476 FAX 0985-22-5476